令和１年６月２１日

水　の　未　来

沖　大幹　著　　（岩波新書）

樋口　　修

１．総括

環境至上主義と弱い持続性

・１９９２年の地球環境サミット以降、下記の認識が一般的であった

　　気候変動（地球温暖化）こそが地球環境の中で最も重要な課題

・しかし、人類の持続可能な開発に対するグローバルリスクは他にも色々あり、気候変動はその一つに過ぎないという認識に最近は移行しつつある

・以前は「地球環境を守るためであれば現代的な生活を犠牲になるのもやむをえない」といった「過激な環境至上主義」、或は「太古の自然状態が復元されそのまま維持されるのが望ましい」といった「強い持続性」が希求されることが多かった

・近年では、生態系サービスや社会経済活動が適切に維持されるのであれば、自然環境や利用する（投入）財の中身が変化しても構わないという「弱い持続性」でも良いのではないか、という意識が広まっている

・**「環境保全は究極的には人類の幸福追求のためである」という現実的な考え方が主流となりつつある**

２．地球の水の何が問題か

① 水危機がグローバルリスクなのか

② 「水が足りない」とは

③ 使うと汚れる水

④ 水はなくならない

　　安全な水が使えないのは、気候のせいで水が足りないのではなく、それを可能とする社会基盤や、適切なガバナンスが不足しているから

３．仮想水から見た食料安全保障

① 世界の水に頼る日本の暮らし

② 水から見た食料問題

③ 水だけが問題ではない

４．気候変動と水

① 気候変動問題とは

② 気候変動のリスクをどう捉えるか

③ 適応策とグローバルリスクマネジメント

　　気候変動は、唯一のリスクではなく、緩和策、適応策は様々な課題と一体的にリスク管理され、相乗効果が求められる段階にきている

５．未来可能性の構築

　　環境と経済の両立に悩んだ時代はとうに昔に過ぎて、社会と経済と環境という三者の持続性をいかにバランスよく構築するかを構想し、その実現に取り組む時代に来ている